

連載48 地域密着を進める
女子大学の人づくり
 宮城学院女子大学 長谷部 弘
 学長

女子大学が目指す「人づくり」というテーマを、大学経営の視点から多面的に論じてみたいと思います。今回は「出発点」です。

私立大学の特色は、設立目的と理念である「建学の精神」に示されています。そのため、私立大学は、建学の精神に立ちながら時代に即した大学教育のあり方を検討する、とい

う課題を、繰り返し自問自答し続けていくことになりま

す。その問いかけを怠るよう

になった時、その教育事業体

は存在する意味を失います。

自戒すべきことです。

以下、本学の出発点である

「建学の精神」を確認します。

ご承知のとおり、宮城学院

女子大学は、その源を一八八

六年九月に設立された宮城女

学校に由来しています。設置時

の書類を読むと、創業者達は

本校の教育の目的(教旨)を、

キリスト教主義の道徳にもと

づき、「最良の高等普通教育」

を女子に授け、「善良有智の

婦人」を育てることにある、

と書き記しています(『天に

み栄え：宮城学院の百年』)。

私たちは、難しい漢語表現に

惑わされてしまつて、当時の

婦人像、女性像を古めかしい

ものと想像しがちです。しか

し、当時の女子教育の推進母

体は宣教師を送つたアメリカ

のキリスト教会にありました

から、来日した宣教師達の抱

いていた女性像の影響を考え

た方が現実に近いと思えます

(この点は別の機会に)。

さらに、教旨の中にみられ

る「キリスト教主義の道徳」

という文章ですが、もともと

は「聖書の教え」というよう

に直説法で記したものでつた

とされています。聖書はイエ

ス・キリストを証言する書物

であり、イエスの教えの基本

は十戒の前半と後半の主内容

である『神を畏れ、隣人を愛

する』ことですから、現在の

宮城学院のスクールモットー

に直結しています。さらに、

「最良の高等普通教育」とい

う部分は、現代流に翻訳する

と高品質のリベラルアーツ教

育に相当し、「善良有智の婦

人」とは、良識と知的誠実性

宮城学院の女子教育
その出発点



宮城学院礼拝堂

と知恵を備えた女性と解釈で

きますので、現在宮城学院が

タグ・ラインとして掲げている

「愛のある知性」を身につ

けた女性ということになるで

しょう。建学時の女子教育の

精神は、現在に至るまで驚く

ほどしっかりと受け継がれて

います。

宮城女学校が設立された年

である一八八六年という年

は、奇しくも日本の本格的な

産業発展の開始年、いわゆる

「企業勃興」の始まつた年で

す。当時は誰も、それ以降

百年以上にわたつて展開す

る日本の工業発展と経済成

長を予測することはできな

かつたでしょうが、少なく

とも宮城学院の創設者たち

は、「文明開化」と共に女

性もその文明社会の担い手

としての役割を担つて欲し

いと期待していたことは確

かです。

当時の東北地方は、けつ

して日本の後進地域だった

わけではありません。明治

政府による一八七〇年代後半

の殖産興業政策(初期工業化

政策は、周知のように大久保

利通のリーダーシップによつ

て強力に推し進められました

が、その工業化政策には野蒜

築港プランのような宮城県を

含む東北地方の開発が重点項

目の一つでした。残念ながら

自然災害によつて頓挫してし

まつたものの、この石巻経済

圏を後背地とした海上・内陸

交通網の整備開発プランの存

在は、石巻経済圏と隣接する

東北最大の都市仙台の発展可

能性をも物語っています。

一三七年前、仙台に女学校

を設立し、これから訪れよう

としている文明社会の担い手

となつてくれる女性に高等教

育を行おうとした企てには、

実は設立者たちの意図を遙か

に超えた歴史的社会的意義が

横たわつていたと考えるべき

でありましょう。

長谷部 弘(はせべ・ひろし) 1955年生まれ。福島市出身。東北大学経済学部、経済学研究科終了後、同学部助手、教養部講師、国際文化研究科助教を経て、99年に経済学研究科教授。2021年定年退職し東北大学名誉教授。23年4月から宮城学院女子大学学長。専門は日本経済史(博士(経済学))